

地域医療連携広報誌

つながる医療

特集インタビュー

林 隆三 医師

はやし りゅうぞう

総合大雄会病院
循環器内科 診療部長
地域医療連携室 室長

【主な資格】

- ・日本内科学会認定内科医
- ・日本循環器学会循環器専門医
- ・日本心血管インターベンション治療学会専門医
- ・植込み型除細動器／ペースングによる不全治療研修修了



他院では治療が難しい症例も、積極的に対応いたします。

循環器内科 診療部長
地域医療連携室 室長

林 隆三

林先生は、主にどんな治療に携わっていますか？

年間250件以上の心臓カテーテル治療を行っています。特にPCI（経皮的冠動脈形成術）に力を注いでいます。PCI治療は心臓手術でありながら局所麻酔で済み、開胸の必要がないため傷口も小さくて済みます。そのため身体への負担が少なく、早期の社会復帰が可能です。また総合大雄会病院の循環器内科では、他院で治療が難しい患者さんも受け入れています。施術が非常に難しいといわれている「慢性完全閉塞」の患者さんの治療にも対応しています。

海外からも医師を受け入れていらっしゃるんですね？

2017年より、海外の先生方の受け入れを行っています。当院のみならず日本のPCIの技術は、世界トップレベルです。その一番の要素は、日本人の国民性ともいえる『手先の器用さ』『丁寧さ』が活かされることです。海外の先生方の認識としては、日本でカテーテル治療を見学するだけでも特別な事とされています。

海外の先生方を受け入れる際は、当院の若手医師は英語でプレゼンテーションを行っています。海外の先生方の疑問が全て解決されるまで、積極的に英語でのコミュニケーションをとり、丁寧にお答えするよう努めることで、とても満足いただいているようです。その賜物でしょうか、見学施設として毎回総合大雄会病院を指名していただけるようになりました。

海外の先生方への教育を通して、総合大雄会病院のカテーテル技術を広く世界に伝えることができるこの取り組みは、「日本国内にいても海外の患者さんの治療に貢献できる」という、最良のプログラムだと自負しております。

過去の Observer-ship Program (海外医師受け入れプログラム)

2017年	10月2日	… オーストラリア人医師
	12月6日～7日	… 台湾人医師
2018年	1月29日～2月2日	… A社幹部候補研修
	3月22日～23日	… オーストラリア人医師
	6月1日	… インド人医師
	7月17日～19日	… 中国人医師
	10月29日	… メキシコ人・コロンビア人医師
	12月5日～8日	… マレーシア人医師
2019年	3月11日～14日	… インド人医師
	4月19日	… ベトナム人医師
	6月18日	… インド人医師
	6月26日	… マレーシア人医師
	10月2日	… インド人医師
	12月5日～6日	… コロンビア人医師



治療のため、海外に行かれることもあるのですか？

異文化でのPCIのトピックは枚挙にいとまがありません。発展途上国に赴きますので、狂犬病、日本脳炎、肝炎、破傷風のワクチンは必須です。人生で狂犬病のワクチンを打つ日が来るとは思いませんでした。海外は日本のような「国民皆保険制度」ではありませんので、患者さんの経済的事情で、治療や手術を断念しなくてはならなかったこともあります。海外を知れば知るほど、日本がどれほど素晴らしい国が再認識します。

海外出張治療についてお話しすると、パキスタンでの治療をはじめ、韓国、マレーシアなど様々な国でPCI治療をしてまいりました。CHIP INDIA SUMMIT 2019では、300人以上の現地の医師が集まる学会会場と中継をつなぎ、手術をしながらレクチャーを行うなど、貴重な機会をいただきました。海外での手術は、当院の気心知れた



スタッフと一緒に行う手術とは全く異なります。道具の制限、言葉の問題、費用の問題など、日本では想像できないような様々な問題を乗り越えなければ、手術を成功に導けません。それでも多くの患者さんを救うため、そして総合大雄会病院の技術を世界に伝えるため、今後も海外での治療を続けていきたいと思っております。

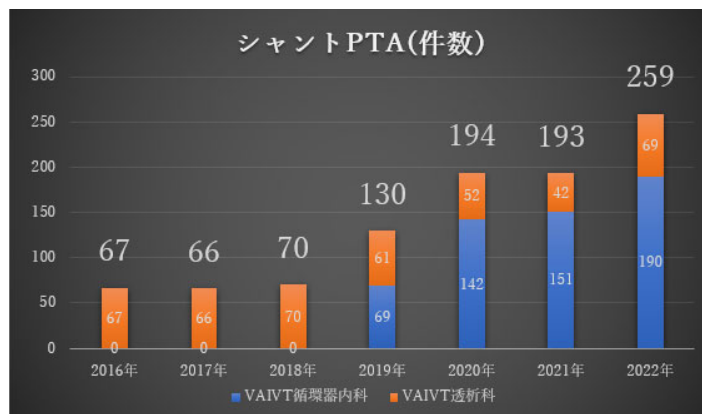
カテーテル治療を国内外で配信・指導されたそうですね！

新型コロナウイルス感染拡大後の2020年より、病院内で治療する医師の手元や患者さんの血管映像、心電図などを配信できるシステムを構築しました。これによってカテーテル治療の様子をライブで配信し、国内外の医師と治療についての情報をリアルタイムで共有できるようになりました。当院での治療方法に固執せず、患者さんにより良い治療を提供できるようにしています。



透析患者さんにも大切な治療を行っているんですね？

当院の循環器内科では、透析の「シャント拡張術（シャントPTA）」を行っています。血液透析を行う際、十分な血液量が確保できるように動脈と静脈をつなぎ合わせた血管を「シャント血管」といいますが、シャントPTAはこの血管が狭窄や閉塞した場合に、血栓吸引カテーテルやバルーンカテーテル（風船付きカテーテル）、または人工



血管を用いて血管を再開通させる治療方法です。私たちはこのシャントPTAを2019年に開始し、2022年12月までに、計500例を超える実績がございます。シャント閉塞に対する緊急の治療にも対応しております。他院の透析患者さんについても常時対応しております。私たちは冠動脈に対するカテーテル治療（PCI）で培った技術を応用し、より質の高いシャントPTAを提供しております。

先生の事をもっと知りたい！

● 医師を志した理由は何ですか？

父が医師だったこともあり、子供のころから医師になるものだと漠然と思っていました。ただ、中学生の頃の成績は悪くとも医学部進学を口にできるようなものではありませんでした。高校に入って一念発起、受験勉強は甘くなく必死に勉強しました。

● 医師として一番大切にしていることを教えてください

やはり「覚悟」じゃないでしょうか。自分が、「必ず患者さんを治す！」という「覚悟」が大事だと思います。

● 休みの日の過ごし方を教えてください

学生時代から続けているゴルフですね。ただ、緊急で病院に戻らないといけないこともあるので、同伴は気の置けないゴルフ仲間と行くことが多いです。幸い、どうしても中断して病院に戻らないといけなかった事は数えられるほどです。



詳しくは、地域医療連携室までお問い合わせください

